

i-Con・建設DX現場見学会

進路選択に役立てて

平田建設 帯工生対象に

【帯広発】(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)は17日、大樹町福祉センターおよび同社が施工している帯広広尾自動車道大樹町歴府北改良、同振別北改良の現場で「i-Construction & 建設DX現場



見学会」を実施した。帯広工業高校の環境土木科の生徒27人が参加。座学Ⅱ写真Ⅱのほか、実際に稼働している現場の重機による作業状況などを見学した。同社が7年前から進めている事業で、コロナ禍の中止をはさんで6回目の開催

となった。冒頭あいさつに立った長谷川社長は「建設機械、測量機械とも毎年ものすごく進化している。きょうは実際の現場で学んだことを生かして、就職などの将来に生かしてほしい」と呼びかけた。また「働き方改革も進み、週休2日制は当たり前、残業時間も減らすよう努力しており、従来の建設業のイメージとは変わってきている。建設業は地域に密着し、インフラの整備を行っている。学校ではできない体験をもとに建設業も含め将来の就職の一助に

なれば」と建設業に就職することも視野に置いた就職活動を期待した。引き続き座学としてi-Construction、建設DX、CIM等について質疑応答、同社の若手社員による座談会などを行った。また、室内体験学習としてバックホーシミュレーター&VR体験を行った。現場ではICT建機体験、杭ナビ等の体験、AR&快速スキャン、UAV体験を行った。生徒たちは実際に稼働している建設機械などを目の当たりにし、将来の就職などに生かそうと研鑽を積んだ。

大樹で工高生向け ICT建機見学会

平田建設

【帯広】平田建設(本社・土幌)は17日、大樹町内で建設産業の生産性向上を目指すi-Constructionの見学会を開いた。帯広工業環境土木科2年生27人が参加。帯広開建発注の現場でICT建機などに触れたⅡ写真。



今回で6回目。午前は大樹町福祉センターでi-Construction

on、建設DXに関する座学で知識を学んだ。午後から同社受注の帯広広尾自動車道大樹町歴府北改良現場で、ICT建機への試乗、測量、ドローン操縦などを体験した。ICTで動きが制御されたバックホーに初めて乗り込んだ手塚真結香さんは「運転には技術が必要で、オペレーターのすごさが分かった」と笑顔で話した。